

# 令和6年度脱炭素先行地域フォローアップ結果の総評

令和7年8月29日  
脱炭素先行地域評価委員会

## 1. はじめに

地域課題の解決と脱炭素を同時実現する全国モデルとなる地域である「脱炭素先行地域」は、一定のエリアを対象に、民生部門の電力の脱炭素化を2030年に実現し、かつ、地域資源の活用や地域課題の解決を通じての地方創生を達成していく取組である。

実際を取組を開始したところ、計画策定段階では想定していなかった事象の発生（たとえば、昨今の資材の高騰など）、社会経済情勢の変動など様々な課題が顕在化してきたが、これらも含めて地域課題を解決しながら地域脱炭素の実現を目指している。

顕在化した課題を受け止めて分析したところ、必要に応じて軌道修正した方がより良い成果につながるということがわかってきた。このような過程を通じて、選定時の計画よりも優れた取組や手法を採り入れ、計画をバージョンアップすることでより先進的でモデル性のある脱炭素先行地域の実現を目指していく。

国は、「地域脱炭素ロードマップ」（令和3年6月9日国・地方脱炭素実現会議決定）及び「地球温暖化対策計画」（令和7年2月18日閣議決定）に基づき、少なくとも100か所の地域で、2025年度までに脱炭素先行地域を選定し、地方創生に資する脱炭素化の先行的な取組を2030年度までに実現することとしており、これまでに6回にわたる応募を経て88地域が選定されている。

脱炭素先行地域評価委員会（以下「本委員会」という。）は、環境省の委嘱を受け、脱炭素先行地域の選定に当たって評価を行うとともに、その実現に向け、選定された各地域の取組の進捗状況を評価する役割を担っている。このたび、本委員会は7名のフォローアップ専門委員とともに令和6年度までに選定された81地域の取組についてフォローアップを実施した。

## 2. 全体評価

脱炭素先行地域全体の取組を総括すると、令和6年度は新たに47.6MWの再生可能エネルギーが導入され、令和4年度からのべ75.8MWの再生可能エネルギーが導入されたこと等により、総CO<sub>2</sub>削減量は1,168,371t-CO<sub>2</sub>となった。地域の担い手となる地域新電力会社等が23地域で新たに事業を開始し、エネルギー代金の流出抑制額は令和4年度からのべ4,893百万円となっており、地域経済に一定の効果が確認できた。

また、今回フォローアップの対象となった81地域では、概ね計画通りに進捗している地域がある一方で、進捗が遅れている地域や、様々な課題が顕在化し、計画の見直しが必要な地域も引き続き見受けられ、その差が浮き彫りになってきている。

脱炭素先行地域は、そもそも実現が容易ではない意欲的・野心的な計画が選定されていることから、試行錯誤を繰り返しつつ実現に向けた突破口を探し出していくことで他の地域へのモデルを示していくよう役目を果たしていく。

各地域に対しては、ヒアリングや現地視察の場において可能な限り丁寧に本委員会の問題意識をお伝えするように努めたところである。本委員会としても、地域脱炭素の実現に向け、危機感・緊張感を持って引き続きフォローアップに臨んでいく。

### 3. 令和6年度脱炭素先行地域フォローアップの結果について

#### (1) これまでに顕在化した課題への対応事例

これまでのフォローアップにおいては、事業の実施体制や合意形成、先進性・モデル性となる地域課題解決への取組の進捗に課題が見られていたが、今回のフォローアップにおいてこうした課題に工夫して対応している事例が確認できたことは、本委員会として高く評価している。下記に紹介するので、他の脱炭素先行地域やそれ以外の地域においても、今後の取組の参考にしていただきたい。

#### ● 共同提案者との連携体制の整備【下関市】

先進的な取組に挑戦する際には、共同提案者を含めた多様な主体との連携が重要になってくる一方で、関係者が増えるほどコミュニケーションや意思決定が難しくなるため事業全体が思うように進捗せず、こうした関係者との連携体制の整備が課題となっている事例が見られていた。

下関市では、事業全体の推進と進捗管理のため、副市長をトップとし、共同提案者や関係事業者から成る「下関市脱炭素先行地域推進協議会」を設立している。そして、その下部組織として6つのプロジェクトチームを立ち上げ、関係する事業者の役割分担を明確にするとともに、各担当者が定期的に協議することで機動的な課題共有・意思決定を実現している。

地域脱炭素の取組には多くの関係者の協力が求められることから、自治体のリーダーシップの下に強力な連携体制を整備して進捗を管理していくことは不可欠であり、その課題解決の見通しを明確にする上でも、レポーティングラインを明確にし、各プロジェクトの進捗に一種の競争原理を取り入れた下関市の取り組みは、先行地域事業のガバナンスを考えるうえでモデルケースを示すものとして評価したい。

#### ● 住民との着実な合意形成の推進【生駒市、紫波町、米子市・境港市、日光市、うきは市】

住宅の屋根への太陽光パネル設置や、再生可能エネルギーメニューへの切替を進めることとしているが、住民の関心が低い、資金面に課題がある、メリットがわからない、等の理由により住民の合意が得られず、住宅への再生可能エネルギー供給が思うように進捗していない地域が見られる。ただし、こうした状況においても、住民との

合意形成に向けて様々な工夫をしている事例が見られた。

生駒市は、当初は戸建住宅への太陽光パネルの設置については PPA のみを想定していたが、市民から買取を希望する意見が多く寄せられたことなどを受けて、リースや買取も含めた方式へ転換した。また、生駒市の登録事業者として施工事業者を公募することで、登録事業者と連携した戸別訪問や説明会・相談会等の周知活動が強化できるようになった。

紫波町においては、地域エネルギー会社である「紫波太陽エネルギー」において常勤職員を採用し、土日勤務を含む柔軟な勤務体制とすることで、週末にも戸別訪問等の営業活動の展開が可能となり、町役場と役割分担しながら効率的に合意形成に向けて取り組んでいる。

また、米子市・境港市においては、オフサイト PPA による荒廃農地への太陽光発電設備導入に当たって、共同提案者である山陰合同銀行が設立した 100%子会社の「ごうぎんエナジー株式会社」が地権者との交渉を担当しており、地域に根ざした金融機関の信頼を基盤として、円滑な合意形成を図っている。

日光市やうきは市においては、太陽光パネル設置に係る施工事業者が市の補助金を住民等に代わって受け取ることを可能とする「代理受領制度」を開始した。これにより住民等は自己負担分のみ支払えば済むこととなり、経済的負担が軽減することで合意を得やすくする工夫をしている。

太陽光パネルの導入や再生可能エネルギー由来電力への切替えについては、多くの地域で住民の合意を得ることがハードルとなっており、住民の理解を得るための周知・営業活動その他の工夫が不可欠であるといえる。本件のようなケースを参考にしながら、各地域において様々な工夫を凝らして合意形成を推進することが期待される。

## (2) 特筆すべき取組事例

今回のフォローアップにおいて、横展開に向けた新たな動きが見られたことは本委員会として高く評価している。

### ● 地域新電力事業者との積極的な情報交換【陸前高田市、瀬戸内市】

昨年度のフォローアップ総評においても取り上げたとおり、球磨村の共同提案者である「球磨村森電力」は日置市の「ひおき地域エネルギー株式会社」と連携しているほか、九州エリア内の地域新電力間での連携関係を活用した横展開を推進しているところであるが、これらの取組の一部は九州エリア外にも広がってきている。

例えば陸前高田市や瀬戸内市は、これらの事業者との積極的な情報交換を行っているほか、様々な地域新電力(※)と情報交換を進めてきており、共通の課題を確認し、互いにアドバイスを行う等、知見の共有が進められている。

(※) おきたま新電力(米沢市・飯豊町)、東松島みらいとし機構(東松島市)、ひおき地域エネルギー(日置市)、球磨村森電力(球磨村)、北九州パワー(北九州市)、

ながさきサステナエナジー（長崎市）、おおすみ半島スマートエネルギー（肝付町）等

地域新電力は地域における再生可能エネルギーの採算性向上のために重要な役割を担っており、地域新電力が向き合っている課題が整理されていくことで、これから新たに再生可能エネルギーを導入しようとする地域にとっての重要な情報となっていくことは間違いない。

このように脱炭素ドミノを倒していくための契機となる取組が行われていることは本委員会としても歓迎すべきことであり、引き続き、交流の輪を広げながら積極的な情報交換がなされることを期待したい。

### （３） 地域課題解決や地方創生に関して進展がみられる取組事例

#### ● 地域資源を活用した環境配慮型農業×脱炭素の促進【うきは市】

うきは市はフルーツの生産が盛んであり、農業が基幹産業の一つとなっているが、農家の高齢化や減少が進み、それに伴い生産品を活用した観光業の衰退も地域の課題となっている。そこで、未利用資源の活用と果樹農家の剪定枝の処分負担の軽減につながるよう、剪定枝を燃料とした木質バイオマスボイラーの設置準備を進めている。また、脱炭素を付加価値とした「サステナフルーツ」のブランド化を進めるため、認証制度を設けることとしているほか、商標出願の実施や、販売先となる道の駅でのプロモーションの準備も開始している。

脱炭素先行地域のモデル事例として、脱炭素と地域課題解決の同時実現が重要であることから、各地域において地域資源を活用し地域課題を解決しながら、これらを通じた地方創生の取組が着実に進んでいくことを期待したい。

### （４） 新たに顕在化した課題

系統接続における接続検討や連系承諾に向けた契約手続等による計画の遅れや資材価格の高騰による事業の見直し等の課題については引き続き多くの地域が直面しているところであるが、今回のフォローアップでは新たな課題も顕在化してきている。

例えば、屋根に太陽光パネルを設置する際、屋根の形状によって屋根に穴を開けずに施工できる場合とできない場合があるが、後者の場合に工期や費用の問題から太陽光パネルの設置が進みにくいということがある。このような課題を解決する技術的なブレイクスルーにも期待したい。

その他に、地域が有する再生可能エネルギーポテンシャルの状況によっては、太陽光発電以外の再生可能エネルギーの導入についても検討が必要となってくるが、その際には例えば以下のような課題があることに留意されたい。もっとも、こうした課題に向き合いながらもバイオマスや小水力の導入を実現している地域もあることから、積極的な情報交換による横展開が進むよう本委員会として尽力したい。

- **バイオマス発電・バイオマスボイラーの導入**

地域によっては木質バイオマス利用が集中していることから燃料需要が競合し、燃料となる木材の安定調達ができない、価格が高騰してしまって採算が合わない、等の燃料供給上の課題が発生している。また、他の産業の副産物として発生するバイオマス原料についても、加工コストがかさむ、十分な量が調達できない等の課題も同様に見受けられる。

この他にも、チップを乾燥させながら保管するための設備が必要になる、灰の処理費用が想定よりかさむ、メーカーが限られており故障時のリスクが大きい等、安定的に運用していく上での課題に直面している事例もある。

燃料の調達に関しては森林組合やチップ製造事業者とあらかじめ協議しつつ、実際の運用を想定した入念な設計を行うことが不可欠であると考えられる。

- **小水力発電の導入**

いくつかの地域で計画されている小水力発電については、詳細な設計を進めていくにつれて、想定より水量が少ない、季節による流量の変動が想定よりも大きい、落差が小さい等により十分な発電量が確保できないことで採算が取れない、地形が複雑で施工が困難、漁協等との水利権協議が難航している、用地の取得が必要になり地権者との交渉が難航している、等の課題が明らかになってきている。

今後、小水力発電を導入しようとする地域においては、計画段階において小水力発電に関する事業者等も交えて十分に検討する必要があることは言うまでもない。もっとも、これらの課題は地域の特性によるところも大きく、実際に設計を進めていかないと判明しないこともあるかもしれないが、少なくともこのような課題が生じ得ることはリスク要因としてあらかじめ考慮に入れておくことが重要である。

#### **4. 今後期待すること**

脱炭素先行地域の取組は第1回選定から3年余りが経過したところであるが、前年度までとはフェーズが変わってきた。

一つは、太陽光発電以外の再生可能エネルギーの導入についてである。太陽光発電以外の再生可能エネルギーは、導入例が比較的少なく、施工可能性や採算性が地域の特性に大きく依存することから、その検討に時間を要することが多い。昨年度はこれらの検討の結果が出始めており、これによって様々な課題が見えてきた。

もう一つは、住民との合意形成についてである。昨年度は多くの地域で住民との合意形成プロセスに本格的に入っているが、想定していたようには進まないということが共通の課題として浮かび上がってきた。

これらの課題は、これから脱炭素や地域課題解決に取り組もうとする地域が直面する可能性が高く、具体的な実践を通じた経験や知見を明らかにした意義は大きい、と考える。

そして、どのように工夫して乗り越えていくのかを明示していくことが重要である。ここで得られた経験知を全国に横展開しドミノを起こしていくことは、脱炭素先行地域という取組の重要な意義の一つであり、本委員会としても知見の集約やフィードバックのあり方については環境省と連携しながら検討し、精力的に横展開を進めていきたい。

また、現在課題に直面している地域においては、環境省地方環境事務所等の伴走支援を受けながら、本委員会としてもヒアリングや助言の協力をさせて頂くので、意欲的な取り組みを続けて頂きたい。

脱炭素先行地域への応募を検討されている地域や、地域課題解決に直面しているみなさまにおいて、今回のフォローアップで確認した様々な課題や経験が、地域を豊かにする取組の立案に少しでも役に立てれば幸いである。